

会 議 録

会議の名称	第3回 東由利地域協議会
開催日時	平成20年1月29日(火)午後4時
開催場所	有鄰館 農林研修室
出席者氏名	「出席者名簿」のとおり
欠席者氏名	長谷山光、阿部清太郎、小番正裕、阿部陽悦、阿部一郎、小松勝男、大庭時晴、大沼武彦、谷口幸子、大日向操子、今野登和子、畠山鋼、小松信子、大日向幸子、小島静子
<p>会議次第</p> <p>1. 開 会</p> <p>2. 挨拶</p> <p>3. 案 件</p> <p style="padding-left: 40px;">1) 「さくら満開のまちづくり」について(説明)</p> <p style="padding-left: 40px;">2) 「さくらいっぱい」のまちづくり」並びに平成20年度版さくらマップ作成に向けた「平成19年度版さくらマップ」資料 に対する改善・要望・意見等について</p> <p>4. その他</p> <p>5. 閉 会</p>	
会議の経過	別紙のとおり

出席者名簿

(地域協議会委員 14名)

役職名	氏名	備考
会長	遠藤 忠平	
	村上 主江	
	阿部 竹雄	
	梅津 榮一	
	畠山 与一	
	小松 佳和	
	梅津 嘉一郎	
	阿部 タツ子	
	畠山 勉	
	石渡 力造	
	金子 拓雄	
	高橋 慶助	
	小松 耕之助	
	長谷山 博昭	

理事	佐々木 永吉	
総合支所長	今野 喜次	
振興課長	小松 慶悦	
市民課長	佐藤 順一	
福祉保健課長	佐々木 喜隆	
産業課長	柴田 和尋	
建設課長	小松 建	
東光苑施設長	大庭 敏昭	
教育事務所長	高橋 悦子	
事務局	高橋 裕子	
	佐々木 晃子	

第3回 東由利地域協議会

と き 平成20年1月29日(火)
午後4時~5時
ところ 有鄰館 農林研修室

1. 開 会 午後4時

2. 挨拶

会長挨拶

本日は、たくさんの出席をいただき、ありがとうございました。

先日、秋田市の合併について魁新聞で9日間に渡る特集が生まれ、その中で地域審議会に関するものもあった。その内容によると、市からの諮問も何も無いということで、どこの審議会・協議会も形骸化しているというのが現状のようだ。

地域の実情、底辺の声は非常に大事だ。今後も忌憚のない話し合いをお願いしたい。

本日は案件にもあるとおり「さくら満開のまちづくり」に関する説明がある。時間も押しているので、効率的な話し合いをお願いしたい。

佐々木理事挨拶

地域協議会については、その存在について手探りの状態で、昨日開催された岩城地域の協議会でも、「何のために…」という声があった。

秋田市では諮問が無かったということだが、由利本荘市については頻繁ではないが、会長名で意見書として頂戴したものに対して、その都度返答もしている。条例上の制度も活用していけないか考えている。もちろん、意見書にならなかった話し合いの内容についても、必ず市長の耳に届けているし、関係部署にも話を通している。決して言いつばなしにはしていないので、ご理解いただきたい。

「さくら満開のまちづくり」は昨年4月から取り組んでおり、市の花が桜になったということで、桜を活かしたまちづくりをしていきたいと思っている。まずは市の桜の状態はどうなっているのか、地元から見つめ直しながら進めていきたい。皆様のご協力をお願いしたい。

3. 案件

- 議長 それでは、「さくら満開のまちづくり」について早速説明をお願いしたい。
- 小松振興課長 振興課の高橋から説明する。
- 高橋参事 (「さくら満開のまちづくり」の趣旨、これまでの経緯を説明)
- A委員 早く言えば何なのか。観光協会とタイアップするわけでもない。
- 小松振興課長 市全域で100箇所、東由利だけで10箇所、桜の名所を掲載したさくらマップを作る。掲載された箇所について、補植等を施し維持していきたいと考えている。
- A委員 市民を集めて花見をすとか、具体的な計画はないのか。
- 今野総合支所長 桜スタンプラリーなどの計画を、同時進行で進めていく。
- B委員 果たして利益があるのか疑問だ。観光客が本当に来るだろうか。他所から人が来るための構想が必要だ。
- 今野総合支所長 観桜会やスタンプラリーなど、昨年に引き続き様々なイベントを、集客も含め計画していきたいと思っている。市外に対しても、駅それぞれにパンフレットを備え付け、無料で配布するような体制まで整えていきたい。
- 議長 グランドデザインはこれからだと思うが、委員の皆さんがどんな考えを持っているのか聞かせてほしい。
- C委員 宿河川公園は自治会が管理しているもの。自治会と相談しながら進めなければいけないのではないか。
- 今野総合支所長 宿河川公園の観桜会には私も2度招待を受けているが、桜の管理者である宿自治会では、ぜひ多くの人に桜を見に来てほしいと思っている。今後もPRに努めていくつもり。管理者側でも喜んでくれると思う。桜そのものについては要望を受けていないが、もちろん必要があれば相談するし、管理者側の要望も聞いていく。
- C委員 管理運営には関係しないという考え方が。

今野総合支所長	宿自治会について言えば、鯉のぼり提供の呼びかけに協力してほしいという要望はあったが、桜そのものの管理運営については要望を受けていない。
D 委員	<p>市の花は桜、木はケヤキ、鳥はキジと言われているが、どのように定められたのか、よく分からない。市民の桜に対する意識が高揚するよう、どうPRしてきたのか。</p> <p>自己満足のように捉えられる。こういうのをやって費用対効果はあるのか。</p>
小松振興課長	<p>市の花・木・鳥は選定委員会を作り、公募によって決めた。制定された後は広報にも掲載されている。</p> <p>これを基に誘客も図っていくというもの。その手法については、これから様々考えていく。皆さんからは、これを利用してはどうか、こういう事をやってはどうかというご意見を伺いたい。</p> <p>維持管理については、自治会等で管理していたものを市で負担するというのではなく、基本的には、地域と協働でやっていくという考え方。苗木や肥料は緑化推進委員会等の補助などを利用し、補植等をしていくといったように。</p>
E 委員	<p>予算は組まないのか。維持管理にはそれなりのお金がかかる。いくら桜百選を作っても、手入れをしないと維持できない。手入れの行き届かない桜を見てもらっても逆効果だと思う。見に来てくれた人に失礼ではないか。</p>
A 委員	<p>管理者に対して財政的な援助も必要。全く考えていないか。</p>
F 委員	<p>桜は誰でも維持管理できるものではない。技術がないとだめだ。</p>
佐々木理事	<p>地域協議会においては、地域ごとに、こういう設定で良いかという確認をしてもらいたい。予算について言えば、例えば、せっかくの百選だから予算をつけましょうとか、8割は負担するから残り2割は手伝ってもらえないか、などという方向へ話を持っていけるかどうか、それもこれからの企画だと思う。</p> <p>まずは第一ステップだということを理解してもらいたい。これを使って何をやっていくか、民間の声を聞きながら企画委員会等で、この後具体的なことを決めていく。</p>
F 委員	<p>まずは企画委員会で草案、叩き台を作ってもらわないと。</p>

佐々木理事	これから、そうしていく。
A 委員	観光協会とは、どう連携していくのか。全然関係ないのか。
佐々木理事	それもこれから決めていく。
D 委員	資料を見たところ、桜の所有者がそれぞれ違う。私有地もあれば、公有地もある。共有の意志がないと成功しないと思う。 桜は難しい。テングス病などの病気も懸念される。慎重にやらないと、要らない経費がかかるようになるのではないかと。
議長	市の花「桜」で、限られた財政のなかで工夫を凝らしながら賑やかな市にしようということ。あまり難しい話にしないで、まずはアイデアを出してほしい。
G 委員	観光協会とタイアップした、観光客を誘導するような運動はしてもらいたい。
H 委員	桜中心にという明るい発想は大変良いと思う。しかし、管理者とは良く相談し、要望は少しでも良いから取り上げてほしい。
I 委員	さくらマップを市のホームページに掲載するということだが、桜の規模に大きな開きがあったり、マップ自体もまだまだ検討や見直しが必要だと思う。そういう点の一つずつクリアしながら、あまり急がずにやってほしい。 また、市内の人でも、さくらマップに載っている名所を知っている人は少ない。県外からの観光客も、こういう下地となる事業がないと呼び込めない。いい考えだと思う。
佐々木理事	写真についても、天候の関係もあり、なかなか満開の時期に撮影できず、今年の春に撮り直すという話も出ている。
I 委員	桜の樹齢や、規模のランク付けを加えてはどうか。見に行ってみて期待外れということがないように配慮してほしい。
J 委員	まず満開の時期を加えてはどうか。これだけ数があれば、満開時期も1カ月くらい開くのではないかと。できるだけ詳しい情報を載せる、それだけでPR効果は違う。
議長	今の財政の中で、桜を基にしてやっていくということ。職員の意識

改革も必要ではないか。矢祭町の図書館の例もある。ボランティアの力も借りたり、工夫次第で財政難は克服できると思う。これからは市に対して、あれもこれもと期待できない。

野田の阿部重助さんが樹木医の資格を持っている。技術を教えたいが、聞きに来る人がいないと言っていた。

I 委員

まだまだ地域にも、そういう技術や知識を持った人がいるかもしれない。桜の維持管理は難しい。パークゴルフ場の芝の張り替えもボランティアがやっているが、そういうボランティア活動の下地づくりも行政の仕事ではないか。職員の中にも有資格者がいるかもしれない。調べたら面白い結果が出ると思う。

B 委員

将来、観光資源として育てていくには、地域の協力が必要だ。

議長

話は尽きないと思うが、本日はこの辺で締めたいと思う。

小松振興課長

次回の協議会は、2月中旬に開催したい。

4 . その他

5 . 閉 会 午後5時